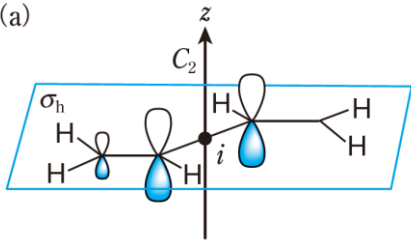
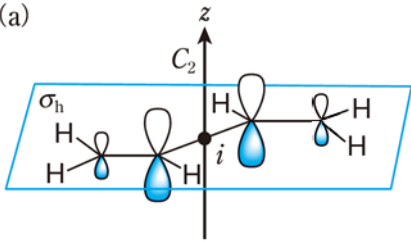


頁	行	誤	正
9	例題 1.4 終盤	上式を r から ∞ までの範囲で積分すると次式が得られる。 $V = -\int_r^{\infty} F dx = -\int_r^{\infty} \frac{kq_1q_2}{x^2} dx = \frac{kq_1q_2}{r^2}$	上式を ∞ (基準値 $V=0$) から r までの範囲で積分すると次式が得られる。 $V = -\int_{\infty}^r F dx = -\int_{\infty}^r \frac{kq_1q_2}{x^2} dx = \frac{kq_1q_2}{r}$
155	1 行目	励起状態 $1s^2 2s^2 2p^6 3s^1 3p^1$	励起状態 $1s^2 2s^2 2p^6 3s^0 3p^1$
231	式(11.5)	$c = v\lambda$	$c = \nu\lambda$ (「ブイ」ではなく「ニュー」)
241	図 11.7(a)	(a) 	(a)  (一番右の炭素に波動関数が抜けています)